

中施策評価書

作成日 令和05年 6月 23日

中施策事業名	社会福祉推進事業	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	野田 勇樹

①めざすまちの姿	02 多様な主体者が連携して、将来を見据えた医療や福祉の戦略を実行しており、市民が安心している
②大施策	市民が安心できる医療や福祉の戦略を多様な主体者が連携して実行されるよう整備する
③中施策	多様な主体者が共通の目標を持ち、行動できる環境をつくる
④中施策事業の対象	市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	多様な主体者と福祉の向上が図られている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・社会福祉の調査及び統計に関すること ・犯罪被害者に関すること ・社会福祉法人 監査に関すること ・地域福祉計画に関すること ・自殺予防対策に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
医療や福祉施設、 制度の利用者の満足度※	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	60	63	64	65	67.7
	実績値	62.5	56			
単位	%					
	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0
	実績値	0	0			
単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額		予算額	
		令和03年度	令和04年度	令和05年度	
① 総事業費(a+b)		293千円	1,357千円		
a	事業費合計	293千円	1,357千円	113千円	
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)		105千円	0千円	0千円	
③ コスト(①-②)		188千円	1,357千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		3円	20円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価 B</p> <p>地域福祉計画に関することでは、重点施策の一つで多様な主体者が連携した取組みとして、「あいさつ運動」を前年度より拡大して実施することができた。具体的には、年2回市内小中学校で実施される「さわやかDAY」との連携に加えて、社会福祉協議会主導による各地域住民からなる「あいさつ運動推進隊」との市内各地域でのハローウォーク活動を年5回実施することができた。また、昨年度は市制50周年ポッチャ大会を開催し、世代や障がいの有無を越えた交流を図り、障がい者の差別解消や理解促進の良い機会とすることができた。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	地域福祉計画関連の「あいさつ運動」については、これまでの活動の効果検証を実施する。また、前年度より継続して実施を予定している街頭活動やハローウォーク等の活動は、より効果的・継続的に実施していくことが必要であり、社会福祉協議会とも連携し、効果的な実施に向けて調整を図る。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	次年度が策定年度となる次期地域福祉計画については、「自殺対策計画」「再犯防止計画」等を包含する内容で策定を予定している。その他各事務事業については、一定の効果が期待できるよう、引き続き進捗を図る。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 4月 26日

中施策事業名	障がい福祉推進事業	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	野田 勇樹

①めざすまちの姿	02 多様な主体者が連携して、将来を見据えた医療や福祉の戦略を実行しており、市民が安心している
②大施策	市民が安心できる医療や福祉の戦略を多様な主体者が連携して実行されるよう整備する
③中施策	多様な主体者が共通の目標を持ち、行動できる環境をつくる
④中施策事業の対象	障害者等
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	障害福祉サービス事業者等と連携し、多様な主体と障がい福祉の向上が図られている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 障害者福祉計画等に関すること ・ 障害者の就労に関すること ・ 虐待防止に関すること ・ 障害者差別解消法に関すること ・ 障害者理解促進事業に関すること ・ 障害者スポーツ振興事業に関すること ・ 災害時要支援者に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
市内障害福祉サービス事業所の数	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	30	31	34	42	43
	実績値	45	52			
単位	箇所					
	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0
	実績値	0	0			
単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			令和03年度	令和04年度	令和05年度
① 総事業費(a+b)			48千円	215千円	
人件費	a 事業費合計		48千円	215千円	3,310千円
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			48千円	215千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			1円	3円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	A 次年度より第4次豊明市障害者福祉計画の策定にはいることから、第3次豊明市障害者福祉計画の進捗状況の確認を行い、概ね計画通り進んでいることを確認した。障害者の就労については就労継続支援B型事業所が増えており、就労の受け皿は確保されてきている。市制50周年ポッチャ大会を開催し、世代や障がいの有無を超えた交流を図り、障害者差別解消や障害者の理解促進のよい機会とすることができた。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	第3次豊明市障害者福祉計画の進捗状況等から課題を把握し、ニーズ調査を行いながら、障がい者が幸せを実感できる生活の基盤づくりとなる第4次豊明市障害者福祉計画を策定する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	第4次豊明市障害者福祉計画に基づき、障がい者福祉施策を推進していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 6月 23日

中施策事業名	障がい福祉サービス事業	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	野田 勇樹

①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができています
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる
③中施策	サービスや支援を充実し、負担を軽減する
④中施策事業の対象	障がいを持つ市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	障がいがあっても幸せを実感できる生活を送っている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・各種障害者手帳に関すること ・各種障害者手当に関すること ・障害福祉サービスに関すること(認定審査会、支払、支給決定等) ・地域生活支援事業に関すること(日常生活用具、移動支援、日中一時支援等) ・精神障害者の入院に関する市長同意に関すること ・補装具に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
障がい福祉サービス支給決定数(18歳以上)	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	440	445	450	450	455
	実績値	447	479			
単位	人					
自分の働き方に満足している障がい者の割合※	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	70.2	71.6	72.8	74	75.9
	実績値	71.3	69.7			
単位	%					

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		令和03年度	令和04年度	令和05年度	
① 総事業費(a+b)		1,264,167千円	1,346,357千円		
a	事業費合計	1,264,167千円	1,346,357千円	1,402,075千円	
	人件費	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)		820,629千円	825,880千円	913,443千円	
③ コスト(①-②)		443,538千円	520,477千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		6,445円	7,563円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	B 障がい福祉サービスが確保できるよう事業所と連携をとりながらリモートでのサービス提供を可能にするなど、感染症対策をとりながらもサービス提供できるよう支援した。障がい福祉サービスの利用は、利用者数、1人当たりの利用量ともに増加傾向にある。特に利用ニーズが高いのは、就労系通所サービスとグループホームであり、それらの市内事業所開設がすすんだことにより、障がい者の自立生活の基盤づくりが推進された。ただし、市内に就労移行支援事業所の数が少なく、就労支援面での課題があることから、自分の働き方に満足している障がい者の割合が低下したと考えられる。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	多様化かつ増大化する障がい福祉サービスの需要に対応しつつ、適正な給付管理を行う。障がい当事者や家族にとって、わかりやすい制度説明と周知工夫を行うとともに、潜在している需要の掘り起こしに努める。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	地域生活支援拠点の機能の強化を図りながら、地域で障がい者を支えていく仕組みの充実を図る。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 5月 8日

中施策事業名	障がい者相談支援事業	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	野田 勇樹

①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができています
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる
③中施策	サービスや支援を充実し、負担を軽減する
④中施策事業の対象	障がいを持つ市民及び家族
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	相談支援を通して課題解決に向けて自立的に行動をとることができている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・精神障害福祉関係会議に関すること ・相談支援事業に関すること ・自立支援協議会に関すること ・事業所指定に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
障がい者基幹相談支援事業委託の相談件数		事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
		目標値	9,100	9,100	9,100	9,150	9,200
		実績値	8,900	9,007			
単位	件						
		事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
		目標値	0	0	0	0	0
		実績値	0	0			
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			令和03年度	令和04年度	令和05年度
① 総事業費(a+b)			22,195千円	22,165千円	
a	事業費合計		22,195千円	22,165千円	22,185千円
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)			6,108千円	6,331千円	6,331千円
③ コスト(①-②)			16,087千円	15,834千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			234円	230円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>B</p> <p>年間相談件数は増加している。さまざまな複雑かつ複合的な課題を持つ家庭の相談を受け、重層的支援会議へつなぎ問題の解決を図った。地域生活支援拠点機能を担う障がい者機関相談支援センターフィットとともに、障がい福祉サービス未利用者のニーズ調査を行い、必要な情報提供を行った。親の高齢化による不安や将来への不安を軽減する支援を行った。</p>
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	複雑かつ複合的な課題を持つ家庭の相談に対して、重層的支援体制整備事業とともに取り組み、課題解決につなげる。親の高齢化や複雑な問題を抱える家庭への対応策として、地域生活支援拠点の機能強化を図っていく。第4次豊明市障害者福祉計画策定にあたり、精神障がい者の地域移行支援を推進する内容を検討する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	地域生活支援拠点の評価を行い、評価に基づく支援体制を検討する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 6月 23日

中施策事業名	社会福祉協議会関連事業	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	野田 勇樹

①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができています
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる
④中施策事業の対象	市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	地域福祉の向上を図ることで、住み慣れた地域で安心して暮らすことができています
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・社会福祉協議会及びその他福祉団体に関すること ・総合福祉会館の管理に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
ボランティア団体 としての活動総人数	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100
	実績値	1,451	1,897			
単位	人					
福祉会館の利用者 数	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	25,000	25,000	25,000	26,500	26,500
	実績値	17,500	18,849			
単位	人					

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		令和03年度	令和04年度	令和05年度	
① 総事業費(a+b)		69,479千円	72,779千円		
a	事業費合計	69,479千円	72,779千円	72,727千円	
	人件費	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)		0千円	0千円	0千円	
③ コスト(①-②)		69,479千円	72,779千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		1,010円	1,058円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価 B</p> <p>社会福祉協議会及びその他福祉団体に関することでは、各団体への補助金等の活用により、地域住民の安心な暮らしのため地域福祉の向上を図ることができた。また、評価指標の目標の達成状況については、目標値に届いていないものの、コロナの状況の変化等も影響し、増加傾向が見られた。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	多様な人・団体が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくるために社会福祉協議会により、サロン事業や地域と連携した事業（あいさつ運動の一環としてのハローウォーク活動等）の推進を図る。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	各事務事業については、一定の効果を示せるよう、引き続き進捗を図る。また、老朽化の進んでいる総合福祉会館については、利用者が快適に利用できるように公共施設管理課とも調整し、必要な改修・修繕等を行っていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 8月 17日

中施策事業名	民生委員、児童委員関係事務	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	野田 勇樹

①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができています
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる
④中施策事業の対象	市民及び民生児童委員
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	民生委員が住民の身近な相談先となることで、市民が安心して暮らすことができています
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 民生児童委員に関すること ・ 民協福祉広報部会に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
地域から孤立して いないと思っている 市民の割合※	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	84.5	82	84	86	87
	実績値	79.8	78.6			
単位	%					
	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0
	実績値	0	0			
単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			令和03年度	令和04年度	令和05年度
① 総事業費(a+b)			9,823千円	10,615千円	
人件費	a 事業費合計		9,823千円	10,615千円	10,788千円
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)			5,893千円	5,978千円	5,978千円
③ コスト(①-②)			3,930千円	4,637千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			57円	67円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価 B</p> <p>民生児童委員に関することでは、各民生児童委員の日々の見守り活動等により、地域でのつながりづくりの役目を担うことができた。また、コロナのため中止していた「チャリティバザー」は令和4年10月に豊明市共生交流プラザ（カラット）にて実施することができた。さらに、愛知県社会福祉協議会主催の各動画研修についても、市で会議室等会場を準備し、大半の委員の方が受講することができた。</p>
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	令和4年12月に行われた民生児童委員一斉改選により、本市でも全体の1/3程度の委員が交代となった。市内全域での民生児童委員活動の維持・向上を図るため、特に新任委員の方へは、より丁寧なフォローを行っていく。また、愛知県社会福祉協議会主催の各研修等にも各委員の方が参加しやすくなるよう準備・手配を行っていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	民生児童委員活動のより一層のレベル向上を図るため、愛知県社会福祉協議会主催の委員向けの各研修等は積極的に参加するようにし、受講する体制の面でも各委員の方が参加しやすくなるよう準備・手配等を行っていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 4月 26日

中施策事業名	社会福祉団体事務	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	野田 勇樹

①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる
④中施策事業の対象	市民及び社会福祉団体
⑤中施策事業の意図 <small>(対象をどのようにしたいですか)</small>	社会福祉団体の活動を支援することで、地域福祉が向上し、暮らしやすさが向上している
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・日本赤十字社に関すること ・保護司会に関すること(社会を明るくする運動)

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
社会を明るくする運動の啓発のための市民動員	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	600	600	600	600	600
	実績値	700	800			
単位	人					
社会を明るくする運動記念講演会参加者	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	100	100	100	100	100
	実績値	124	0			
単位	人					

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額		予算額	
		令和03年度	令和04年度	令和05年度	
① 総事業費(a+b)		416千円	809千円		
人件費	a 事業費合計	416千円	809千円	826千円	
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 <small>(事業費に含む)</small>	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)		0千円	0千円	0千円	
③ コスト(①-②)		416千円	809千円		
市民一人あたりコスト <small>(③/市の人口(評価対象年度末時点))</small>		6円	12円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>総合評価 B</p> <p>日本赤十字社や保護司会に関することでは、事務局として各社会福祉団体の活動を支援することで、地域福祉の向上を図ることができた。社会を明るくする運動に関する各事業も予定どおり実施することができた。なお、評価指標の目標の一つ「社会を明るくする運動記念講演会参加者」については、前年度は本市開催ではないため実績なしとした。また、コロナにより中止していた日本赤十字社の街頭キャンペーンについては、市内商業施設にて実施することができた。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	前年度より再開した日本赤十字社の街頭キャンペーンについては、規模を拡大して実施することでより一層の周知啓発を図る。また、保護司会関係では、3市1町で組織される「愛知保護区保護司会」全体の事務局が令和5・6年度は豊明市が当番市となる。広域での事業実施を意識して、地域福祉の向上を図る。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	特に保護司会関連では、引き続き広域での事務局として、各福祉団体の安定的な活動のために進捗を図っていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 6月 23日

中施策事業名	障がい福祉団体事務	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	野田 勇樹

①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができています
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる
④中施策事業の対象	市民及び障がい福祉団体
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	障がい福祉団体の活動を支援することで、障がい者及び家族が活発に交流することができている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・各種団体に関する補助金・委託に関すること ・民協障がい者福祉部会に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
豊明市心身障害者 児福祉連合会の会 員数	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	230	235	235	235	235
	実績値	185	185			
単位	人					
	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0
	実績値	0	0			
単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			令和03年度	令和04年度	令和05年度
① 総事業費(a+b)			6,324千円	6,621千円	
人 件 費	a 事業費合計		6,324千円	6,621千円	5,998千円
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			6,324千円	6,621千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			92円	96円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

<p>上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析</p>	<p>B</p> <p>市制50周年を記念したレクボッチャ大会を障がい福祉団体に委託し実施し、世代や障がいの有無を超えた交流を図り、つながりあえる地域づくりの推進を図った。また、障がい者週間啓発イベントを実施し、障がい者の理解促進を図った。</p> <p>民協障がい者福祉部会では、障がい福祉の勉強会を開催したり、就労継続支援B型事業所の視察研修会を実施し障がい者理解を深めた。</p> <p>団体によっては、会員の高齢化や役員のなり手不足で、存続が難しくなっている団体もある。</p>
------------------------------------	---

■改善案の検討

<p>現年度に実施可能な改善・調整事項</p>	<p>障がい者理解が進む事業や障がい者の支援につながる事業を団体へ委託、補助し実施し、障がいのある方が地域の人とつながり、多様な人が交流を深めることで、地域で支え合える環境づくりを検討する。</p>	
<p>翌年度以降に実施可能な改善・調整事項</p>	<p>団体活動と地域との交流が障がい者理解につながるような活動支援を検討する。</p>	
<p>今後、改善・拡大する事業</p>	<p>事業名</p>	<p>内容、理由、時期等</p>
<p>今後、実施すべき新規事業</p>	<p>事業名(仮称)</p>	<p>内容、理由、時期等</p>
<p>今後、休廃止する事業</p>	<p>事業名</p>	<p>内容、理由、時期等</p>

中施策評価書

作成日 令和05年 4月 14日

中施策事業名	生活困窮者等扶助事業	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	野田 勇樹

①めざすまちの姿	16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない
②大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する
③中施策	家族を支援するサービスを充実させる
④中施策事業の対象	経済面で困窮したり、障がいや疾患により支援が必要な状態になっている市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	相談事業を通して適切な情報提供を受けることができ、就職や支援につなげることで安心して生活できている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 生活困窮者自立促進支援事業に関すること 生活困窮者学習支援事業に関すること 子どもの貧困対策事業に関すること 包括的就労推進事業

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
就労相談による就職実績の向上（就労相談者÷実就労者数）	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	70	70	70	70	70
	実績値	66	76			
単位	%					
	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0
	実績値	0	0			
単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		令和03年度	令和04年度	令和05年度	
① 総事業費(a+b)		39,619千円	104,478千円		
a	事業費合計	39,619千円	104,478千円	52,891千円	
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)		7,504千円	40,441千円	26,005千円	
③ コスト(①-②)		32,115千円	64,037千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		467円	931円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

<p>上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析</p>	<p>B</p> <p>不就労による困窮や社会的孤立を防ぐために就労や社会参加に重点を置いた包括的就労推進事業が開始され、就労についての相談者は増えているが就労実績率は指標を達成できた。また、誰もが働くことのできる環境整備のために企業との連携づくりに向けて取り組むことができた。臨時特別給付金等の事業があったため、コストは増加した。緊急生活支援事業にて毎回の物資配達に合わせて各課からの情報提供や相談先の周知を行い、対象者に応じた適切な支援先につなげていった。</p>
------------------------------------	---

■改善案の検討

<p>現年度に実施可能な改善・調整事項</p>	<p>誰もが働くことのできる環境づくりのために、より多くの民間企業との連携を進めていく。また実施にあたり、包括的就労推進事業の周知啓発を進め、企業連携を行うために適切な検討を行うことができるように支援を行う。</p>	
<p>翌年度以降に実施可能な改善・調整事項</p>	<p>支援が必要な人が必要な支援につながるができるように多様なニーズを把握し、対応できるような庁内外を含めた連携づくりを行っていく。また、労働局等にも助言をいただきながら企業連携について協議を進めていく。</p>	
<p>今後、改善・拡大する事業</p>	<p>事業名</p>	<p>内容、理由、時期等</p>
<p>今後、実施すべき新規事業</p>	<p>事業名(仮称)</p>	<p>内容、理由、時期等</p>
<p>今後、休廃止する事業</p>	<p>事業名</p>	<p>内容、理由、時期等</p>

中施策評価書

作成日 令和05年 4月 13日

中施策事業名	生活保護扶助事業	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	野田 勇樹

①めざすまちの姿	16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない
②大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する
③中施策	家族を支援するサービスを充実させる
④中施策事業の対象	生活保護法による被保護家庭
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	生活保護法による扶助の給付を行うことで、最低限度の生活を保障する
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・生活保護の相談に関すること ・保護費支給に関すること ・医療券、介護券の発行、点検に関すること ・資産、年金、収入等の調査事務に関すること ・就労支援事業に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
後発薬品利用率	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	75	75	75	75	75
	実績値	87.2	84.2			
単位	%					
被保護者数	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	380	380	380	380	380
	実績値	309	316			
単位	人					

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額
		令和03年度	令和04年度	令和05年度
① 総事業費(a+b)		1,174,706千円	618,296千円	
a	事業費合計	1,174,706千円	618,296千円	577,397千円
	正規職員	人数	0人	0人
		b金額	0千円	0千円
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人
		金額	0千円	0千円
人件費合計		0千円	0千円	
② 補助金等(収入)		493,036千円	489,113千円	447,452千円
③ コスト(①-②)		681,670千円	129,183千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		9,906円	1,877円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>B</p> <p>新型コロナウイルス感染症による影響が続き生活保護相談も昨年度同様増加傾向にあるが、臨時特別給付金や社協貸付金等生活困窮者に対する施策の活用により、生活保護受給者数は微増となった。</p> <p>R3年度に続きR4年度も給付金等の事業が複数実施され、生活保護受給者や生活困窮者への支援があったため、決算額は増加した。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	愛知労働局との雇用対策協定や包括就労推進事業が開始されており、引き続き生活保護受給者への積極的な就労支援を実施する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	生活保護費医療費を抑制するために、生活保護受給者に対する後発医薬品使用の啓発を、引き続き推進していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 6月 23日

中施策事業名	重層的支援体制整備事業	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	野田 勇樹
①めざすまちの姿	16 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない		
②大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する		
③中施策	多様な主体者が連携し、家族を支える環境をつくる		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市民の複合的・複雑化する生活課題に包括的に対応できる福祉体制の整備がされている。		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重層的支援体制整備 ・ 地域共生社会推進事業 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
多機関で実施した 会議数	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	25	30	32	35
	実績値	0	20			
単位	回					
支援が必要になっ た時に活用できる サービスを知って いる市民の割合 ※	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	45	53	61	69
	実績値	0	42.4			
単位	%					

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額		予算額	
		令和03年度	令和04年度	令和05年度	
① 総事業費(a+b)		0千円	8,984千円		
人件費	a 事業費合計	0千円	8,984千円	8,800千円	
	正規職員	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)		0千円	5,645千円	6,187千円	
③ コスト(①-②)		0千円	3,339千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		0円	49円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

<p>上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析</p>	<p>B</p> <p>多機関で実施する支援会議やプロジェクト会議等を定期的に行い、複合課題を抱える世帯や事業を行う上での課題を通して、包括的に対応することの必要性や関係者間の関係づくりはできた。また、重層的支援体制整備事業の周知啓発を定期的に行い、相談支援機関間の連携の必要性や包括的な相談支援事業の実施について検討することができた。事業の周知啓発を市民団体や相談支援機関の研修会にて実施し、地域におけるつながりづくりの必要性の理解促進を行った。</p>
------------------------------------	--

■改善案の検討

<p>現年度に実施可能な改善・調整事項</p>	<p>子ども・障がい・高齢・生活困窮に関わる相談支援事業所において、分野の枠を越えた包括的な相談支援事業を実施していく。また、重層的支援計画書の作成を行うことで、相談支援機関と伴走しながら支援体制づくりを行うことができるようにしていく。</p>	
<p>翌年度以降に実施可能な改善・調整事項</p>	<p>地域における複雑・複合的な多様な課題に対応できる地域づくりの支援や誰にもつながっていない人を救い上げることができる仕組みづくりに向けて関係機関と協議を行っていく。</p>	
<p>今後、改善・拡大する事業</p>	<p>事業名</p>	<p>内容、理由、時期等</p>
<p>今後、実施すべき新規事業</p>	<p>事業名(仮称)</p>	<p>内容、理由、時期等</p>
<p>今後、休廃止する事業</p>	<p>事業名</p>	<p>内容、理由、時期等</p>

中施策評価書

作成日 令和05年 6月 23日

中施策事業名	障がい児福祉サービス事業	部課名	健康福祉部・地域福祉課
		作成者	野田 勇樹

①めざすまちの姿	30 子どもの個性や感性を尊重し、伸ばしている
②大施策	子どもの個性や感性を尊重し、伸ばす環境をつくる
③中施策	好きなことができるように周りの大人の理解を深め、支援できるようにする
④中施策事業の対象	障がい児及びその家族、関係者等
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	障がいに応じた療育支援や居場所を利用することで発達を促し、個性を伸ばすことができる。
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・児童障がい児サービス事業

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況						
障がい児福祉サービス事業 利用件数	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	150	150	420	430	430
	実績値	406	392			
単位	件					
	事業実施年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0
	実績値	0	0			
単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		令和03年度	令和04年度	令和05年度	
① 総事業費(a+b)		369,119千円	437,460千円		
a	事業費合計	369,119千円	437,460千円	421,740千円	
	人件費	人数	0人	0人	
		b 金額	0千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		0千円	0千円		
② 補助金等(収入)		291,036千円	341,325千円	354,811千円	
③ コスト(①-②)		78,083千円	96,135千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		1,135円	1,397円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>B</p> <p>令和4年度は、児童発達支援センターが開設され、そこを中心とした関係機関との連携によるサービスの充足が進んだ。市内事業所は年々増加しており、利用ニーズの受け皿となっている。しかしながら、潜在的なニーズは高く、充足には至っていない。障害児福祉計画に基づく福祉施策の充実とサービスの適正利用が進むことが必要。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	令和5年度に策定する第3期豊明市障害児福祉計画において、前期計画の障がい児福祉施策の評価を行うとともに、ニーズ調査を行いながら必要とされる施策を検討する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	第3期豊明市障害児福祉計画に基づき、障がい児福祉施策を推進する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等